

貿易投資相談ニュース

2026年6月 Vol.291

多摩信用金庫 海外事業支援部 住所：〒190-8681 東京都立川市緑町 3-4
<https://www.tamashin.jp/>



今月の見出し

1. 世界の主要ニュース
2. たましん公表外国為替相場
3. 【現地出張レポート】～UAEの食品市場に関して～



世界の主要ニュース

中東との輸出入額大幅減少（日本）

財務省発表の2026年4月の貿易統計速報値(円貨)によると、中東からの輸入額は56.8%減少の4,692億円、輸出額も55.5%減少の1,395億円と大幅な減少となりました。中東情勢悪化に伴うホルムズ海峡の事実上の封鎖を受け、カタール・クウェートからの輸入はほとんど停止しており、ホルムズ海峡を通らない代替ルートのあるサウジアラビアからの輸入も前年同月比36.4%減少の2,145億円となりました。輸入品目別で見

ると鉱物性燃料は最大シェアの91.5%でしたが、前年同月比58.2%減少と大幅に減少しました。また、中東への輸出額に関しては最大輸出先のUAEでも前年同月比40.1%減少の766億円となりました。輸出品目別で見ると、自動車が前年同月比90.8%減少の159億円と大幅に減少しました。中東情勢が長引く可能性も示唆されており、引き続き情勢の注視が必要と思われます。

第1四半期貿易統計、輸出入ともに大幅増加（中国）

中国海関総署(中国税関)が2026年第1四半期(1月～3月)の貿易統計を発表しました。輸出は前年同期比14.7%増加の9,775億ドル、輸入は22.7%増加の7,132億ドル、貿易総額は18.0%増加の1兆6,907億ドルとなっています。貿易総額は最大貿易相手先ASEAN向けが前年同期比18.4%増加、2位のEUが17.6%増加となりました。国単位の増加率としては香港が53.4%の増加と大きな伸び率を示しました。第1四半期の貿易総額は過去最高額となったことに加え、四半期ベース伸び率も過

去5年間で最高を記録しました。輸出では輸出額の約6割を占める機械・電子機器が前年同期比21.4%増加の6,200億ドルと高い伸びを示し輸出を下支えしました。輸入においても機械・電子機器が約4割を占めています。中国では人型ロボット産業が爆発的に成長を遂げており、政策主導で本格的な商用化と量産体制の確立のため急速に発展しています。政策支援と民間資本の活発的な動きに支えられ、今後も高い市場成長性を背景に、関連分野への資金流入も増加していくと思われます。

国際貿易を促進させる新物流ルートを開設へ（サウジアラビア）

サウジアラビア鉄道公社はサプライチェーンの効率向上、輸送手段の統合を目的とした新物流ルートを5つ開設すると発表しました。新設予定のルートはペルシャ湾沿岸の港と同国中部・北部地域を結ぶとともに紅海沿岸の港湾や同国北部の近隣諸国へと延びるものであり、東西を結ぶ物流ネットワークの強化を図ります。本施策は、同国の国家改革戦略に沿ったもので、鉄道輸送と道路輸送が複合活用されることで同国が世界的な物流拠点となることを目指しています。物流インフラ整備により石

油化学製品や鉱物資源の輸送が円滑化され、輸送時間の短縮、物流の信頼性向上が期待されます。ホルムズ海峡で実質通航制限が発生した背景で、原油や資源、コンテナ貨物含めた世界物流は多大な影響を被っています。海上での輸送リスクがあるなかで陸上輸送や鉄道を活用した物流ルートの重要性は高まっており、東西を結ぶ陸上物流の整備は海上輸送に過度に依存せず、同国が中東・アジア・欧州・アフリカを結びつける存在として国際物流環境の強化につながる将来性が見込まれています。

たましん公表外国為替相場

(2026年3月16日～2026年4月17日、TTSレート、単位：円)

日付	3/16	3/17	3/18	3/19	3/23	3/24	3/25	3/26	3/27	3/30	3/31	4/1	4/2
米ドル	160.43	160.37	160.19	160.88	160.52	159.47	159.66	160.52	160.60	160.99	160.88	159.87	159.72
ユーロ	184.07	184.61	185.12	184.85	185.60	185.26	185.99	185.84	185.47	185.61	184.88	185.35	185.52
日付	4/3	4/6	4/7	4/8	4/9	4/10	4/13	4/14	4/15	4/16	4/17	最安値	最高値
米ドル	160.70	160.77	160.85	159.65	159.92	160.30	160.88	160.23	159.91	159.82	160.42	159.47	160.99
ユーロ	185.73	185.43	185.94	186.64	186.73	187.61	188.30	188.85	188.88	188.97	189.26	184.07	189.26

最新の外国為替相場はたましんホームページをご確認ください。(https://www.web-tamashin.jp/ex_rate/)



【現地出張レポート】

～ UAEの食品市場に関して～

今回はUAEに出張した際に感じた食品市場とヒアリングから見えた同国の市場の特徴を、筆者の視点でご紹介します。



<世界一高いビル ブルジュ・ハリファ 828m>

基本情報

UAEの面積は約8万3,600km²(北海道と同程度の大きさ)人口は約1,100万人、首都はアブダビです。通貨はUAEディルハムで公用語はアラビア語です。宗教についてはイスラム教です。在留邦人は約4,775人です。日本食レストラン数は約170店です。

農林水産物・食品基礎情報

日本からの輸出額の多い品目は清涼飲料水、牛肉、ソース混合調味料、菓子(米菓子を除く)、かつお、まぐろ類となっています。輸入される食品はすべて事前に政府の食品輸入再輸出システムへの登録が義務づけられ、税関および各首長国で検査・審査されます。ハラール認証は食肉製品のみ必要です。それ以外はハラール製品であることを前提として前述の食品輸入再輸出システムに写真や成分表示のラベルを登録する際にハラール性が担保されることとなります。食品輸入の際には、日本の公的機関発行の衛生証明書が求められますが、商工会議所のサイン証明で代替可能です。UAEの最大都市であるドバイを中心に日本食レストランが相次いでオープンしています。近年では居酒屋風レストラン、日本式ベーカリー、スイーツ店が人気を博しています。日本食で寿司は最も好まれるジャンルの一つです。全体として日本産の水産物や加工品の需要は高まっています。多種多様な人口構成であるうえに、観光客が多く訪れるため、様々な国の飲食店や様々な産地の食材を扱った小売店が多く存在します。

ヒアリングから見た消費者層

日本食レストラン経営者へのヒアリングでは、UAE市場の特徴がより明確になりました。UAE国民は同国での人口の約1割にとどまり、インド系が最大勢力を占める一方、近年は英語運用能力の高さを背景にフィリピン人が急速に存在感を高めています。フィリピン人は消費意欲が強く、SNSで話題になった店舗に短期間で人が集まるなど、外食市場の重要な顧客層となっています。

また、ドバイでは味よりもアニメの世界観を楽しむ体験型コンテンツとして、店内デザインをアニメの世界観に寄せた店舗が増えており、日本のアニメ文化との親和性が高いことも集客につながっています。さらに、外国人富裕層は夏場に国外へ出るため季節変動が大きい一方、UAE国民やフィリピン系住民は年間を通じて安定した需要が見込める点も特徴です。このように、UAE市場では単一の日本食ファン層に依存せず、複数の消費者層に合わせた柔軟な商品・サービス展開が求められています。

所感と今後の展望

今回の出張を通じ、UAEでは日本産食品への潜在的需要は高いものの、市場認知度を高めることが必要だと感じられました。例えばUAEにおいて調味料等の基礎的な日本食材は認知度が低く、丁寧な情報提供が必要だと感じました。また、SNSや日本文化を組み合わせた発信が効果的と考えられます。現在は中東情勢の影響でUAEでも物流面での不安定さが増しています。食の流通においても入荷遅延等の直接的な影響を少なからず受けております。現地駐在員の帰国など、対面式事業の見通しは不透明ではありますが、日本産食品の需要の高さとターゲットを明確にした販売戦略を立てUAEへの輸出にチャレンジしてみたいかがでしょうか。

<展示会でのジャパンプース>



多摩信用金庫 花田

本ニュースは情報提供のみを目的としています。

施策実施等に関する最終決定は、ご自身で判断されるようお願い致します。また、これらの情報は当金庫が信頼できると考える情報源から得た各種データ等に基づいて作成されていますが、その正当性・完全性につきましては当金庫が保証するものではありませんのでご了承ください。

本ニュースのデジタル版はこちら

